

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	福祉科教育法B(Teaching Methodology in Welfare)	授業コード	K005651
担当教員名	山岸治男		
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	教職必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	教職を志望しており、通常のコミュニケーションが可能なこと。教職に期待される役割を習得する意欲を持つこと。		
受講心得	講義の中で教師に必要なミニマム(最低ライン)を求めるので、これに誠実に応え、自ら教職力を習得している実感を体感してください。		
教科書	学習指導要領、高等学校「社会福祉基礎」教科書		
参考文献及び指定図書	講義中に提示します。		
関連科目	免許取得に必要な全科目		

授業の目的	教師として高等学校「福祉」を指導する力量を習得することです。そのために、必要な知識を自ら習得し、指導内容に関する資料を収集し、手順・時間配分・組み合わせ、などについて実践的能力を培います。
授業の概要	授業計画に即して講義を聴き、ノートし、調べ、資料作成し、意見交換し、発表し、授業案を作成し、模擬授業を行うなど多様な活動を組み合わせます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：教科教育と教科指導の意義</b> 高校の教科内容としての福祉科について、学校教育法や学指導要領などによって再検討し、指導の意義と授業について考えます。	講義時に資料を配布することがあります。教科書は必ず持参してください。図書館を利用した予習を課すことがあります。また、意見を求められた場合は声を出して要点が解るように発言してください。すぐ答えられない場合は「待ってください」「これについては分かりません」などと応答してください。受講生同士が相手の意見に敬意をもってよく聴くよう努めてください。
<b>第2週：社会生活・人権・福祉の関連性に関する指導</b> 福祉の基本がひとの社会生活にあること、人権尊重に立つ社会福祉が必要なことについて再検討し、それらを指導する授業について考えます。	
<b>第3週：福祉科の内容と指導目標</b> 高校福祉科で指導する九つの教科について概要を再検討し、各教科の関連性と、それらを加味した授業について考えます。	
<b>第4週：指導目標の達成過程と授業</b> 学習指導要領によって、各教科の指導目標を確認し、目標を達成するための授業のあり方について検討します。	
<b>第5週：授業の成り立ち</b> 福祉科の内容を前提に、授業が成り立つための要件について理解し、そのための方法について検討します。	
<b>第6週：授業における教師・生徒間の相互作用</b> 福祉科の内容を前提に、授業時の教師・生徒間のコミュニケーション過程について理解し、生徒の学習を喚起する方法について検討します。	
<b>第7週：授業における教材解釈と認識の変容</b> 福祉科の各教科を対象に、教材解釈について理解し、実際の場面に立って教材解釈の演習を行います。	
<b>第8週：福祉科指導における学習集団の学習支援</b> 学習集団の集団としての士気を高める必要性について理解し、士気を高め、意欲を創出する指導について検討します。	
<b>第9週：福祉科授業の分析</b>	

各教科について、授業の質を検討し、改善するための授業分析の方法について理解し、実際の場면을想定して分析とその方法について検討します。		
<b>第10週：福祉科授業の組み立て・構成</b> 前時の内容を受け、福祉科授業の組み立て方や進め方について理解し、実際の場면을想定して実施し、検討します。		
<b>第11週：福祉科指導案の作成手順</b> 毎時の指導について指導案を作成するための基礎的知識と技術について理解し、指導案作成方法について検討します。		
<b>第12週：福祉科指導案作成の実際</b> 教科ごとに実際に活用することのできる指導案を作成し、評価・反省を加えて指導案の修正について検討します。		
<b>第13週：福祉科授業の実施準備</b> 机上の理論のみではない福祉科の各教科に関し、授業準備について理解し、実際に演習形式で取り組みます。		
<b>第14週：福祉科授業の実際</b> 実際の授業を想定して模擬授業を行うことについて体験する。		
<b>第15週：福祉科授業の実際と評価・反省</b> 各教科別に授業案による実際の授業を「模擬授業」として行い、相互に合評し、反省と改善の方法について検討します。		
<b>第16週：後期分テスト</b> 後半15回分の講義内容について試験を行います。		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>	授業の形式 受講生数に応じて、講義、演習、検索、記録・記述・分析、報告、模擬授業などを組み合わせます。 授業の形式は、受講生数に応じて組み合わせが異なります。	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	受講生が、ノートを取りながら聴講する活動、演習に参加する態度、調査課題について諸資料を検索する活動、記述など文章化する活動、報告、模擬授業などを通して、それぞれの能力を受講前と比べて向上したと実感できること。
<b>【知識・理解】</b>	知識や理解について毎時簡単な質問をする際に応えられるよう復習すること。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	発問への応答、感想記録などにきちんと対応すること。
<b>【思考・判断・創造】</b>	聴く、話す、読む、書く、指導案を作成するなどの全活動に良習慣を習得するよう努力すること。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点	10点	10点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	20点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	20点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	10点	10点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	・講義内容から、選択・空欄記入などの形式のほか論述形式からも出題し、講義内容を理解しているか否かを確認する内容を課します。ノートや授業案等、日々の学習活動について評価します。
発表・その他(無形成果)	・参加態度は、積極性や意欲、受講生仲間への配慮や責任感、誠実さなど、教師として求められる資質について評価します。